

## 日本内分泌病理学会 理事会 議事録

日 時：2010年3月28日（日）12:15～13:00

場 所：京都国際会館 1F 会議室 104

出席者：佐野壽昭理事長、成瀬光栄、長村義之、高見 博、寺本 明、  
井上金治、笹野公伸、覚道健一、加藤良平 の各理事  
吉本勝彦 監事

欠席者：高野加寿恵 理事、山下裕人 監事

オブザーバー：山田正三 第15回会長

議題：

<審議事項>

1. 日本病理学会におけるコンパニオンミーティングの開催について
2. 会員増加の方策について

<報告事項>

1. 役員改選について
2. 第14回（2010年度）学術集会について
3. 第15回（2011年度、内分泌学ウイーク）学術集会の準備状況
4. 第84回（2011年）日本内分泌学会学術総会（松本会長）の  
当学会提案プログラムについて
5. EPS について
6. 悪性褐色細胞腫の実態調査と診療指針作成について
7. その他

JES-sponsored symposium 海外招聘者への対応について

<その他>

1. 事務局から : 会費納入状況について

冒頭、佐野理事長より、理事出席者数は9名であり、定款第16条の定足数（2/3＝7名）を満たすので、本理事会は成立する旨の説明があった。引き続き、同理事長の司会により、予定された議題について議事が行われた。

<審議事項>

1. 日本病理学会におけるコンパニオンミーティングの開催について

・佐野理事長より、日本病理学会第2日目[4月28日（水）18:00～19:00 D会場]に「内分泌腫瘍の鑑別診断のクルーとピットフォール」（座長：長村義之、佐野壽昭）のテーマで下記3件の講演から成るコンパニオンミーティングを開催したいとの提案があり、了承された。

- (1) 「甲状腺における組織学的診断クルーとピットフォール」  
隈病院病理診断科 廣川満良
- (2) 「副腎皮質腫瘍の良悪性の病理組織学的鑑別」  
東北大学附属病院病理部 笹野公伸
- (3) 「消化管の内分泌細胞腫瘍の病理診断」  
新潟大学医学部保健学科 岩渕三哉

## 2. 会員増加の方策について

- ・佐野理事長より、前項のコンパニオンミーティング開催も会員増加策の一環であるとの説明があった。また、同理事長より、事務局の調査によれば学術総会における筆頭演者が会員でない場合が散見されるとの報告があり、配下協力者への入会要請が行われた。今後、学術総会の演題募集の際に、「筆頭演者は会員」を徹底することとした。
- ・若手研究者が入会しやすいように、年会費についての議論が行われ、現行の一般会員年会費（4,000円）のほかに、卒後5年間までの者に対して新たに年会費2,000円を設けることが承認された。

### <報告事項>

#### 1. 役員改選について

- ・佐野理事長より、任期満了（二期4年、2006年総会～2010年総会）の5理事（佐野壽昭、成瀬光栄、笹野公伸、加藤良平、覚道健一）および定年制のため一期（2年、2008年総会～2010年総会）で任期終了の3理事（長村義之、高野加寿恵、井上金治）が改選の対象になること、また留任（二期4年、2008年総会～2012年総会）は2理事（高見 博、寺本 明）であるとの説明があり、今回の選挙では理事8名を選出し上位5名が二期4年（2010年総会～2014年総会）、残り3名が一期2年の任期（2010年総会～2012年総会）になるとの報告が行われた。
- ・選挙実施は6月～7月頃を予定しており、郵送で評議員（選挙人、被選挙人とも）による投票が行われる。

#### 2. 第14回（2010年度）学術集会について

- ・成瀬会長より、2010年10月29日（金）・30日（土）にハイアットリージェンシー京都で開催すると紹介があった。
- また、演題募集は5月10日（月）～7月17日（土）で、詳細案内は順次ホームページに掲載される。なお、理事会は前日28日（木）の午後6時半頃に予定されている。

### 3. 第15回(2011年度、内分泌学ウィーク) 学術集会の準備状況

・山田次期会長より、以下に示す前回理事会時の状況から大きくは動いていないが、会場は5月末に決定すること、参加登録費は一般5,000円、学生(学部学生、大学院生)2,000円程度で統一する方向であることが報告された。また、参加登録受付は当学会の非開催日も必要になるとの説明があった。

日程： 2011年11月23、24、25、26日(水、木、金、土)

場所： 早稲田大学国際会議場(新宿区西早稲田)ないし

明治大学アカデミーコモン棟2F会議場(千代田区神田駿河台)

各学会開催日程案： ●は合同シンポジウム開催

	23日(水)	24日(木)	25日(金)	26日(土)
比較内分泌学会	—/○	○/○	●/—	—/—
神経内分泌学会	—/—	—/—	●/○	○/○
内分泌病理学会	—/—	△/○	●/○	—/—

基本合意条件は、①一つの学会に参加登録をすれば全ての学会のプログラムに参加できる。但し、発表者は当該学会に参加登録しなければならない。

②プログラム集作成、抄録集作成、参加登録などはそれぞれ独立に行う。

③総合ポスター、総合プログラム集は統一のものを作成する、となっている。

### 4. 第84回(2011年)日本内分泌学会学術総会(松本会長)の当学会提案プログラムについて

・プログラム委員の成瀬理事より、評議員から募ったプログラムアンケートすべてをプログラム委員会に提案したこと、またその後の同委員会における討議の結果、下記(1)～(4)のように修正されたとの報告が行われた。また、追加すべきテーマがあれば至急連絡願いたいとの要請があった。

#### (1) 教育講演

推薦演者は国内からとの会長からの指示で変更されている。

①「褐色細胞腫の病理診断：その限界と今後の展望」演者：木村伯子

②「副腎皮質癌の分子病理学と予後因子」演者：笹野公伸

③「原発性アルドステロン症の診療の現状と今後の展望」演者：未定

#### (2) シンポジウム

「核内受容体と内分泌代謝疾患 Update」

協同して企画する関連学会：日本ステロイドホルモン学会

演者：柳瀬敏彦、柴田洋孝、北川浩史(座長：加藤茂明、諸橋憲一郎)

### (3) ミニシンポジウム

「Neuroendocrine tumor の悪性度と臨床経過」

演者：高野幸路、土井、伊藤鉄英、田辺晶代（褐色細胞腫）

（座長：佐野壽昭、平田結喜緒）

### (4) クリニカルアワー

①「原発性アルドステロン症の診療ガイドラインの意義と課題（内分泌病理を含めて）」協同して企画する関連学会：日本ステロイドホルモン学会  
演者：田村尚久、佐藤文俊、田辺晶代、柴田洋孝（座長：成瀬光栄、西川哲男）  
及び「悪性褐色細胞腫の実態と診療指針」（厚労省班会議の報告）の2テーマを共同で企画する。

→厚労省研究班副腎関連の2班合同で行うことになり、内容が調整されている。

②「サブクリニカルクッシング症候群の予後と診断基準」

（座長：高柳涼一、須田俊宏）を他のクッシング症候群のテーマと共同で企画する。

以下は、今後、会長・委員長が調整する。

### (5) 教育セミナー（＝ランチョン）

①「古い薬の隠れた作用：カルシウム拮抗薬のアルドステロン拮抗作用」

②「原発性アルドステロン症の新しい内分泌病理診断法」

③「副腎癌の薬物治療」、④「褐色細胞腫の核医学検査による局在診断法」

⑤「メタボリックシンドロームの診断基準の今後」

## 5. EPS について

・覚道理事より、会長を務めた Endocrine Pathology Companion Meeting

（Saturday, March 20, 2010, Washington DC）は参加者 100 名を超え、盛会裏に終了したことが報告された。また、Wolfe Award（論文賞）に日本からも応募してはどうかとの提案があった。

## 6. 悪性褐色細胞腫の実態調査と診療指針作成について

・成瀬理事より、MHLW 研究班と内分泌学会臨床重要課題のジョイントで行っている標記調査の結果が報告され、一次調査の患者数推計結果は良性 2,600、悪性 320 であった。今後、病理の観点からの協力要請が行われるとともに、本研究に関するホームページが開設されたとの紹介があった。

## 7. その他

・佐野理事長および覚道理事より、昨年総会承認を受けた国際学会負担金から ICE2010 の JES-sponsored symposium 海外招聘者の宿泊費を支払ったこと、また会食費も負担する予定であることが報告され、了承された。

〈その他〉

1. 事務局から

・事務局から、会費納入状況について下記の通り報告した。

年 度	2007 年度決算	2008 年度決算	2009 年度 (2010 年 2 月時点)
会員数	195	196	200
会費納入者数	122	114	139
納入率	62.5%	58.2%	69.5%

以上

(記録：事務局・岸、理事長および庶務理事校閲済み)